

農業農村整備事業等再評価地区別資料

局	名	東海農政局
---	---	-------

都道府県名	三重県	関係市町村名	た き ぐ ん た き ち ょ う わ た ら い ぐ ん た ま き ち ょ う 多気郡多気町、度会郡玉城町
事業名	水利施設等保全高度化事業	地区名	みやがわ こうく 宮川1工区
事業主体名	三重県	事業採択年度	平成21年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、三重県の中・南勢地域に位置し、一級河川宮川沿いに広がる水田地帯であり、施設は昭和32年度に着工された国営宮川用水土地改良事業の下流用水路として県営事業により整備され、多気町、玉城町の農地430haをかんがいしている。

用水路は、建設から約45年が経過し、施設の老朽化により漏水が発生し営農に支障を来しているほか、維持管理に多大な労力と費用を要している。

このため、老朽化が著しい本地区の施設をパイプラインに更新して国営造成施設と一体化することにより、農業用水の安定供給と維持管理の省力化を図るものである。

受益面積：430ha

主要工事計画：用水路 16km、揚水機場 3箇所、頭首工 2箇所
水管理施設 一式

総事業費：3,472百万円（計画総事業費：3,472百万円）

工期：平成21年度～令和6年度（計画工期：平成21年度～令和6年度）

関連事業：国営かんがい排水事業「宮川用水第二期地区」
県営経営体育成基盤整備事業「野中・成川地区」「兄国・朝長地区」

〔項目〕

ア 事業の進捗状況

本地区は、平成21年度に事業着手し、平成30年度までの進捗率は77.9%（変更計画事業費ベース）である。

なお、事業着手後の受益面積の減少や現場状況の変化等に伴う事業量及び事業費の見直しによる計画変更の手続きを行っている（法手続き中）。

① 計画工期に対して著しい変更は認められないか

事業実施において、現場状況の精査や地元調整などによりルートの見直しが生じ、協議調整に時間を要したことなどから工期を令和6年度に延伸し、完了に向け計画的に事業進捗を図ることとしている。

② 地元負担等について、関係者間の合意形成が図られているか

地元負担について関係者との合意形成が図られている。

イ 関連事業の進捗状況

国営かんがい排水事業「宮川用水第二期地区」は、平成 24 年度に事業完了している。

また、本事業区域の支線水路の整備を行う県営経営体育成基盤整備事業「野中・成川地区」「兄国・朝長地区」は、それぞれ平成 23 年度、平成 22 年度に事業完了している。

- ① 「農業農村整備事業管理計画」等に即し、関連施策等との連携・調整が行われているか
農業農村整備事業管理計画に即し、適切に連携・調整が行われている。

- ② 国営附帯地区については、国営事業との進捗調整が図られているか

国営事業は平成 24 年度に完了しており、国営附帯地区は、効果の早期発現の観点から、順次、整備を実施している。

ウ 農業情勢、農村の状況その他の社会経済情勢の変化

- ① 受益面積の増又は減が 10%未満であるか

受益面積は、用水系統の見直しや転用等により、当初の 449ha から 430ha に 4.2%減少した。
なお、計画変更にあわせ時点見直しを行っている。

- ② 主要工事計画の著しい変更が認められないか

用水路のルートを変更する必要性が生じたため、変更計画により見直しを行っている。

エ 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化（費用対効果分析の結果を含む）

費用対効果分析の基礎となる要因の変化は、変更計画により見直しを行っている。

- ① 工法や事業量の変更に伴う事業費増分（労賃又は物価の変動によるものを除く。）が計画事業費の 10%未満であるか

用水路の施工において、地下水位が想定より高かったこと、上下水道等の地下埋設物が支障となったことなど現場状況の精査に伴い土留め工法を採用した。また、用地買収が困難で施設位置を変更したこと、河川協議で河川横断位置が変更となったことなどのルート変更に伴う水路延長・旧水路撤去の増加等があった。これらにより事業費が 1,075 百万円増加（物価変動等を除く増 44.8%）したため、変更計画により見直しを行っている。

- ② 市町村等が策定する農業振興計画等との整合が図られているか
多気町及び玉城町の農業振興地域整備計画と整合が図られている。

- ③ 費用対効果分析の結果

(B/C) 1.10（当初計画：1.09）

* 参考値：地区内ため池の災害防止効果を含めた場合 1.94

オ 環境等の調和への配慮

本地域は、日本でも有数の良好な水質を誇る宮川の流域に位置し、緑豊かな水田が広がっており、玉城町、多気町の田園環境整備マスタープランにおいては環境配慮区域となっている。

本事業の実施に当たっては、例えば、多気町荒蒔地区の宮谷池周辺の排水路にゲンジボタル等が生息していることから工事の濁水対策を行うなど、生物の生息環境の保全に努めている。

カ 事業コスト縮減等の可能性

既設開水路内に新設パイプラインを設置する工法を採用することによって、既設開水路の取り壊しや掘削等が省略され、建設コストを抑えることができる。

今後の主な工事となる既設開水路の撤去においては、排水路機能を有する区間の存置などによるコスト縮減に努める。

キ 地元（受益者、地方公共団体等）の意向

本地域では、老朽化による水管理労力の増大に大変苦慮しており、受益農家及び関係機関は、

予定工期限内に事業が完了し、事業効果が早期に発現することを熱望している。

ク その他

第1回計画変更現在法手続き中。令和2年3月計画確定予定。

事業主体の 事業実施方針	継続する。
事業主体の 予算要求方針	令和2年度予算を要求する。
第 の 三 意 者 見	関連する国営事業は完了しており、本事業の実施による総体的な事業効果の発揮が望まれる。 農業用水の安定供給による農作物の生産向上や水管理労力の低減を図るなどの事業効果を早期に発現するため、引き続きコスト縮減や環境への配慮に取り組みつつ、予定工期限内の事業完了を目指されたい。 本事業の効果を長期的に発揮していくためには、地域の実態に即した担い手の育成、営農体制の構築に努められたい。
補 助 金 交 付 の 方 針	予算を割り当てる。

